

第125号
中学生特集

藤枝明誠ニュース

FUJIEDA MEISEI News

発行 学校法人 藤枝学園 藤枝明誠中学校・高等学校 渉外課広報担当 / Tel 054-635-8155 / Fax 054-635-8494 / Email meisei@fgmeisei.ed.jp / URL https://www.fgmeisei.ed.jp

10月28~31日 中学3年生修学旅行 新しい発見がいっぱい!いざ!古都散策



J31HR集合!



奈良 京都

- 奈良 ◆ 10月28日
- ↓ 慈光院(抹茶体験と法話)
- ↓ 法隆寺
- ↓ 薬師寺
- ↓ 平城宮跡
- 奈良 ↓ 京都 ◆ 29日
- ↓ 東大寺大仏殿
- 奈良公園散策
- ↓ 興福寺国宝館
- ↓ 金魚ミュージアム
- ↓ 宇治平等院
- ↓ 伏見稲荷大社



- 京都 ◆ 10月30日
- ↓ 都市内タクシー研修
- 京都 ◆ 31日
- ↓ 嵐山周辺散策
- レストラン嵐山(昼食)
- ↓ 学校着



J32HR集合!



夜の京都タワー



東大寺南大門



1日目の夕食

修学旅行での学び

J32HR 大畑 歎奈 (藤枝市立大洲小学校出身)

私たちは10月28日から31日までの4日間、修学旅行で奈良・京都に行きました。そこでいろいろなことを学ぶことができました。

1つ目はルールを守ることの大切さです。私たちが訪れた場所には、平安時代から鎌倉時代にかけて作られ、職人さんや地元の方たちの手によって守られてきたものが多いです。普段あまり見ることができない国宝や重要文化財を実際にみることで、今年からはガイドさんの説明をイヤホンを使って聞くことができ、細かいところまで学ぶことができるいい機会になりました。

この4日間で学校の授業とは異なり、現物を見たり体験することで日本の歴史の奥深さに触れることができ、私が知らなかった日本を認識することができました。

ともとともに

J31HR 岩ヶ谷 龍聖 (島田市立初倉南小学校出身)

私たちは、10月28日から31日の4日間で京都・奈良に修学旅行に行きました。今回の修学旅行では、普段の学校生活では得られない貴重な体験ができました。友達と協力する中で、仲間

法隆寺など、歴史的に有名な場所を訪れました。教科書で見た建物を実際に目にし、歴史の重みを感じました。3日目はタクシーで京都を巡り、見学する場所や昼食の時間を自分たちで決めました。これはとても大変で、いつも旅行の計画を立ててくれる両親への感謝を心から感じました。タクシーの運転手さんが面白い解説をしてくれて、とても楽しかったです。中でも金閣寺が最も印象的でした。陽光に照らされて、金箔がこぼれ落ちて輝く姿に圧倒されました。そして、現金をタクシーに忘れてしまったとき、御朱印代を貸してくれた友達も輝いて見えませんでした。

マナーを守りながら楽しむことができ、とても良い修学旅行になりました。

体験からの学び

J32HR 浜田 知哉 (藤枝市立青島小学校出身)

私たちは10月28日から4日間の修学旅行に行きました。その間にいろいろな場所を訪れ、新しいことを知ったり成長したり、印象に残ったことがたくさんありました。

ですがおおいしくて楽しかったです。2日目は伏見稲荷大社で、ずっと奥まで続いている鳥居を見て感動しました。3日目は班別でのタクシー研修をしました。運転手の方が優しくて助かりました。私たちは当初予定していたうちの4つの場所に行きました。その中でも印象に残ったのは金閣寺と清水寺です。金閣寺では階層によって中の雰囲気や全く異なることや金箔が6億円相当なことを知りました。清水寺ではお守りを買って、有名な風景を実際にみることでよかったです。

私たちはこの修学旅行を通して他の人に対するマナーを学んだり、今まで知らなかったことを知ったりしました。さらにクラスの中も深まったと思います。この修学旅行で学んだ経験を忘れずに学校生活に活かしていきたいです。

私たちができること

J31HR 岡本 理花 (焼津市立黒石小学校出身)

私たち中学3年生は10月28日から31日までの3泊4日で奈良と京都へ修学旅行に行きました。奈良では主にお寺や神社について学びましたが、中

の通り仏像等がなく過ごしやすい場所と感じました。抹茶を点てるという貴重な体験もみんなできて良かったです。

京都ではグループでタクシーを利用した観光や、嵐山散策をしました。タクシーは普段乗る機会がないので緊張しましたが、グループの友達と行きたい所へ行き、とてもいい経験になりました。

私はこの3泊4日の旅行を通して、世界文化遺産が今も昔と変わらない状態で受け継がれていることは、昔から人々が大切に護ってきたのだと改めて知ることができました。今回学んだことを言葉にして伝えていくことは、この先も世界文化遺産を守り続けることとして自分達のできることを思いました。

